

第6回 「日本語大賞」

テーマ

^{いま} ^{つた} ^{ことば}
「今、伝えたい言葉」



高校生の部 優秀賞 受賞作品

ありふれた言葉の中の幸せ

神奈川県

横浜市立ろう特別支援学校

3年 大掛 加奈

ありふれた言葉の中の幸せ

神奈川県 横浜市立ろう特別支援学校 三年

大掛 加奈（おおがけ・かな）

私は聴覚に障害がある。周囲の音はほとんど聞き取れず、音として認識できない。そのため、健聴者と違い耳から言語が入ってこない。だから、なかなか日本語が身につかず、正しい発音もできていない。人とのコミュニケーションをとることが人一倍苦手な私は、幼い時から辛い日々を過ごしてきた。

私は子ども心に話せなくてもジェスチャーをすれば気持ちは伝わると軽い気持ちで考えていた。幼稚園はろうの学校で過ごし、自宅から近いという理由で近所の小中学校に入学した。

中学生の時にシヨックな出来事があった。いつも仲良くしていた友人にこう言われた。「あの人、何言ってるかわからない。それなのにあなた友達になるなんて凄いな」とクラスの人に言われたと話してくれた。

それを聞いた私は、目の前が真っ暗になった。私の言っていることが通じていないというのもシヨックだったが、それ以上に私が他の人と友達になることってそんなに凄いことなの？と考えているうちに次第に腹立たしくなってきた。

それからは、一生懸命に発音練習をし、日本語の勉強もした。しかし、思うようには上達せずイライラすることが多かった。

努力を積み重ね徐々に発音もよくなってきた頃、授業で分からない時は、隣の席の人に教えてもらっていた。

ある時、なにげなく「ありがとう」と礼を言うと、彼女は「どういたしまして」と笑顔で返事してくれた。ごくありふれた出来事だが、私にとってはとても嬉しかった。いつも自分が障害者であるという疎外感を味わっていたので「どういたしまして」というありふれた言葉に心が満たされた。

更に発音が上手になりたいと思い努力を重ねた。そうすることで、少しずつ周囲とも話すようになった。話すことで場の雰囲気にも慣れ、自ら声を発することに自信が持てるようになった。人と話をする時に、どのような内容で話せばいいのか少しずつ考えるようになった。

言葉で思いを伝えることができるって素晴らしいと思う。素直に感謝の気持ちを伝えただけにもかかわらず、相手は喜んでくれる。やはり、口に出して自分の気持ちを伝えないと、相手には伝わらないと痛感した。

周囲と少しずつ話せるようになった頃、嬉しいことが二つあった。それは友人から「発音上手になったね。聞き取りやすいよ」と言われたことだ。そして、もう一つは友人から

間接的に国語の先生が「耳が聞こえないのに、一生懸命に発音をしようとしている。凄いことだと思う」と話していたことを聞いた。なんだか照れくさくなってしまったが、とても私を元気づけてくれる言葉だった。

こうしたことがあり、私は少しずつ話すようになった「もう発音が嫌で話せない私じゃない。私だって堂々と話せる。もっともっと色々な人と話したい」ふとそんな気持ちになっ
っていた。

上手に発音し、人とのコミュニケーションができるように、母と話す時は手話を使うのを止め、口話にすることにした。

もし、あの時自分の気持ちに素直になって感謝の気持ちを口に出して言えなかったら、「ろう」という世界から抜け出せずにいたかもしれない。手話中心の生活を送り、言葉の素晴らしさに気付けないままだったかもしれない。

日本語は世界一難しい言語だといわれている。しかし、私にとっては本当に発音しやすく、単語だけでも意味が伝わるので、日本に生まれ日本語という言葉の中で育ったことを幸せだと思う。自分に障害があったからこそ、辛く苦しいこともあったが、人が経験したことのない、様々な経験ができて良かったと思うこともある。

今、私の一番好きな言葉は「ありがとう」だ。毎日のように、使っているありふれた言葉だ。しかし、私はいつも皆から助けってもらってばかりいる。それではいけない。自分からどんな小さなことでも、助けてあげられるように、積極的に動けるようにしなければと思うようになった。

お礼を言われると、たとえどんなに小さなことでもやはり嬉しい。言葉の力って不思議だなと思った。その言葉を聞いただけで嬉しくなったり、悲しくなったりする。言葉によって、人間の喜怒哀楽が左右され、様々な感情が生まれる。

私は声を大にして今こう伝えたい。言葉無しでは自分の気持ちは伝わらない。だから、素直に自分の気持ちを言葉に込めて伝えなければならぬ。私は、言葉に感謝し、もっと皆とたくさん話がしたいと思っている。